

法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

法政大学史学会通信 第三号

出版者	法政大学史学会
雑誌名	法政大学史学会通信
巻	3
ページ	1-10
発行年	1963-12-14
URL	http://hdl.handle.net/10114/11267

法政
大学
史学会通信

第三号

昭和三十八年十二月

目次

- 一 竹内教授欧州短信 (続)
- 二 山陰に閑居して (洲浜昌利)
- 三 大学院日本史学専攻講義題目 三十八年度
- 四 研究会めぐりー 封建社会研究グループ
- 五 史学会行事
- 六 会員新著紹介・代官 (村上直著)

竹内教授欧州短信 (続)

拝啓 独乙、北伊太利の旅を終へた後、南伊、シシリ
を訪れ再びローマに帰りましたが次いでローマの南方モ
ンテ・カシーノに参りベネディクト修道院の一室に宿泊
して居ます こゝは才二次大戦の戦火をうけて全く破壊
しましたが今は殆んど旧態そのまゝに復興しました。
こちらは秋とは云ふものゝ日中は未だ相当な暑さです
皆様御大事に

敬具

モンテカシーノ修院にて 昭和卅八年十月一日

〔才十信〕

○ 拝啓 伊太利の見学を終へてロンドンに來ました こゝ
ではホテルの室内ではもうスチームが通つて居るのに驚
きました 南伊太利から見ると大変な相異です 研究室
もそろそろ大会などを御多忙の事と存じます 御多祥を
祈上ます

十月五日 ロンドンにて

〔才十一信〕

○ 拝啓 倫敦を去つて巴里に移り唯今ルーヴル博物館に通
つて居ります

研究室も諸行事にて何かと御多忙の御事と存じますが
皆様の御健勝を御祈り申上ます

昭和卅八年十月廿四日

敬具

巴里の宿舍にて

〔才十二信〕

拝啓 マドリッドに参りました これから約一週間程でセヴィラ、トレド、コルドウア、グラナダをめぐるつもりです。

史学会大会の盛会を御祈りして居ます

昭和卅八年十一月三日

マドリッド宿舎にて

〔才十三信〕

○

拝啓 マドリッドを去りトレド、セヴィリア、コルドバを経てグラナダに参りました 日中風は相当に冷いが陽の光は南国だけにかなりの厳しさを感じます
遙に御一同様の御多様を御祈り申し上げます 敬具

昭和卅八年十一月八日

グラナダの宿舎にて

〔才十四信〕

山陰に閑居して

洲 浜 昌 利

「送別会をなんて大袈裟な、長くて二年もすれば東京へ帰つて来るのだから。」そう云い乍ら学友と袖を断ち松江に向つたのは、昭和三三年一〇月上旬だった。それから瞬く間に五年の歳月が流れた。その間に色々な事が身

辺に起つた。私立高校の教師から県立高校の教師に、結婚、別居、長女の出産、しかし、それ等は何一つとして（勿論そこには、少さな刻々に起るありふれた人生の喜びは否定できないが）私にとつて、人生の総ての渴を癒してくれるものではなかつた。唯、現実には押し流され、それに迎合して流れていたのである。

時も時、今年八月安岡・片桐・先輩を始めとする大学院諸氏の山陰旅行の報に接した私はと踊して喜んだ、懐かしさがジーンとこみ上げてきた。そして、此の機会こそ、私の自堕落な生活に無言の喝を入れた。

しかし、日頃不勉強な私には、先輩の先達など率直に云つて重荷である事を痛感し途方にくれた。何とかして日頃の不勉強さを一時的に *Overcome* する事は出来ないか、助けの神はいないものか、考えぬいた、その上句迷案は名案を生んで、津和野高校の岩谷健三先生に肩代りを御願ひした。先生の御快諾を得た私は、先生や先輩に済まぬと思い乍らも正直なところほつとした。

万事此の調子であるから、先輩に申訳ないこと此の挙もない。もつとも先輩も私がそんなに勉強しているとは思つておられないだろうと一抹の安堵をそこに感じているが……とは云うものの先輩も後輩のだらし無さに痛恨やる方ないものを感じて帰京された事と思う、とに角、

山陰旅行の 尾に列した私は、幸せ者であることを感じると同時に冷汗のもでもあつた。

それから二ヶ月過ぎた一〇月中旬、島根県高等学校社会科研究会石見石部地区会が津和野高校で開かれた。私も「中間発表」を余儀なくされた。その折、先生に今夏の御礼を申し上げた。すると先生は、

「東京へ帰られてから丁寧に御土産を送つて頂き大変恐縮に思つています。何かの機会に厚く御礼を申しておいて下さい。片桐さんも若いのに随分熱心で、しかも、ここら辺りの蘭学関係に就いてちゃんとつぼどこをおさえておられたの感心した。」と云われた。

何だか、自分が誉められてゐる様な錯覚をおこした。そして、法政史学に就いて、頭をしぼつて、気炎をはいたのだが……我に返つた時は何となく淋しかった。この淋しさを噛緊めたい（八回卒・島根県立益田産業

高校匹見分校）

オ二号訂正

ページ段

誤

正

7 上

ノーマン

ノーマン

12 上

日本人町

日本町

12 下

本年

本年度内

大学院 日本史学専攻講義題目 (昭和十八年度)

* 博士課程 (木曜4時限のみ昼間)

岩生成一教授

日本史学特殊研究Ⅰ (木4) C. R. Boxer,

Jan Compagnie in Japan (博士課程)*

日本史学特殊研究才二 (水Ⅰ) 蘭学史の諸問題

日本史学演習才二 (木Ⅰ) 長崎夜話草

児玉幸多教授 (兼任)

歴史地理学 (月Ⅰ)

丸山忠綱教授

日本史学 (水Ⅱ)

日本史学原典研究 (金Ⅱ) 日本史史料集古代編

小西四郎講師

日本史学特殊研究才一 (火Ⅰ) 自由党史

周藤吉之講師

東洋史学特殊研究才一 (金Ⅰ) 宋代土地制度

関野 雄講師

東洋史学演習 (火Ⅱ) 史記平準書

清水 博講師 (代講)

西洋史学特殊研究 (月Ⅱ) 二十世紀アメリカ史

研究会めぐり 1

封建社会研究グループ

当グループの発足は、昭和三三年六月に開始された「サンデー・ヒストリアン」に求められよう。芥川宅、丹治・黒江両氏宅をそれぞれ会場とし、吉川・黒崎・渡辺清助の諸氏が参加して、研究発表、論文批評などを月一回日曜日を主に実施していた。

一方当時学部在学の富塚・星野・石塚・山本・若宮・戸田・福原の諸氏の間で「史料抄影」の講読会がもたれていた。

昭和三五年春この両グループが合して「封建社会研究グループ」となり、家庭クラブ会館・校友会館・芥川宅・星野氏宅を会場にして、今日まで約二十回の例会、二回の総会をもち、研究発表を主に運営され、この他随時、『日本書紀』講読会が十数回、史料採訪が会津若松方面、国府津真楽寺、信州和田村、米沢方面、越後村上方面、大分図書館、竹田図書館、柳川立花家、九大文化史研究所、筑後方面旧家などにグループ員個人又は数名で実施されて来た。

昨年来グループの組織を整備して、代表委員・集會委員・編集委員・庶務会計委員を構成し、隔月に例会をも

ち、会報も隔月に発行（A・5判、タイプ印刷十頁）し年内に九号発刊の予定である。例会は高輪泉岳寺の塔頭である陽寿院の書院を定例会場として、グループの本部は代表委員（芥川）宅にしている。

グループの目的としては、封建社会の基礎的研究に意を注ぐことにおき、同人組織で運営している。（芥川）

〔お詫び〕

前号掲載の法政大学付属学校在職者一覧で女子中・高等学校に該当者が不在旨を添記しましたが、本年四月以降亀井博氏が教諭として在職されていました。但し同氏は史学科から法学部に転じ、大学院政治学専攻（博士課程）に進まれました。十回（旧姓）佐藤幸子さんの夫君です。

史学会行事

才五回大会記事

昭和三十八年十月十二日（土）午后二時四十分開会
次の七氏が研究発表（会場58年館八六七教室）

1 東国における領主制の成立―千葉常胤の場合―

修二 段木 一行

2 辺境「在家」の成立とその性格をめぐって

―特に南九州を中心として―

3 日本科学史上の一・二の問題

十回 村川幸三郎

博一 大森 実

(以上司会 河原教授)

4 舎密から化学へ

博一 向井 晃

5 自由民権論者の「天」の思想

院五 松尾 章一

6 赤羽一著「農民の福音」について

院七 松尾 貞子

7 明治二十年代の日本主義について―健康的ナショナリ

ズム論への批判

八回 那須 良郎

(以上司会 丸山教授)

岩生教授の挨拶があり午后六時終了

引続いて六時半から教職員食堂で懇親会を催し席上岩生会長から「本日は快晴で富士山も鮮かに見え、学会には勿体ないお天気だったが、今日の研究発表で本会が他の学会に遜色ないことを改めて認識した」旨を述べられたほか、夕食を共にしながら参会者全員各自の近況や感想を語つて八時過散会した。当日は森克己先生が寸暇を割いてご出席下さつた。

なお八回生四井政美氏(日本道路公団勤務)寄贈の出土品(才三京浜道路計画沿線で採集)を大会会場受付前

に展示した。

△懇親会出席者▽

岩生・河原・丸山各教授、森講師、安岡講師、片桐助手、芥川竜男、中山公彦、寺沢茂、那須良郎、中村昶、黒江俊子、大森実、向井晃、青木光行、段木一行、坂本秀男、井上清、奥山英男、石山禎一、他学生委員

見学記事

○足利学校・~~徳阿~~寺見学(秋季・史蹟)

昭和三十八年十月二十七日(日)東武浅草駅八・四三発、足利市駅一〇・三五着、足利学校遺蹟図書館・聖堂、過日損傷の入徳門も修補済。徳阿寺(ばんなじ)境内新設の休所で昼食、テープ吹込みによる宝物説明の两点前回(33・5・25)と異なる。一五・五九足利市駅発。当朝雨天を決行で参加者僅少、氏名以下の通り

岩生教授・丸山教授・安岡講師・片桐助手・藤池ミサオ(旧姓土屋)・筒井トキ・茂木哲夫・川田昇(通教卒、足利市立三中)他に日文科卒業生一名。

「藤井・板沢両先生追悼録」の発行

大学院日本史学会では藤井甚太郎・板沢武雄両先生の在りし日の面影と御指導ぶりを偲んで、思い出の文集を作成しました。

B5判タイプ印刷三八ページ

巻頭に板沢先生御病中の口述メッセージと藤井先生の処世訓を収録、両教授の大学院特講題目を掲げ、追悼文十七篇、付録に両先生論著目録補遺（法政史学11・15号の目録を補足するもの）を添付。

※若干余部がありますので実費でお頒ちします。御希望の方は史学研究室までお申込み下さい。一部百円（送料別に二十円切手）

《会員新著紹介》

『代官』 幕府を支えた人々 村上直著

丹治 健蔵

著者村上氏は史学科（旧制二回）を卒業、その後都立大学大学院において研鑽された私共の先輩である。氏の最近における研究活動は、まことにめざましいものがあ

り、岩波の日本歴史講座（近世編^{註1}）にも「代官」に関する研究論文が引用されている。

本著はかように蓄された代官研究の成果を土台に、江戸時代の初期から末期までの名代官とよばれる人物・二十三人の生涯・業績を通して代官の職制・性格・役割などについての正しい認識を与えようとしたものであり、かつて類のない異色の著書とも云えよう。こゝに後輩の一人として氏の活躍に敬意を表し、本書が出版されたことを心からお祝い申し上げたい。

さて、本著のあらましを紹介してみると、まず、「江戸幕府の直轄地と代官」において、代官の職制や性格の変遷を概括している。ついで、初期の代官頭、伊奈忠次、大久保長安、彦坂元正らが徳川氏の覇権確立のため、関東入国前後において、検地、新田開発、治水、鉾山の開発、伝馬制の成立など多彩な活躍振りをあとづけられており、著者ならではと思わずにはいられない。また、関東十八代官（八王子代官）や四カ領用水路を完成させた川崎代官の出身や治績などにも言及している。

さらに、享保では「民間省要」の著者として名高い田中丘隅・殖産で農民を飢餓から救った井戸平左衛門、寛政では領民の教化や備中吹屋銅山を蘇生させた早川八郎左衛門、入百姓などによつて農村復興策に治績をあげた

竹垣三右衛門、化政では干拓工事にすぐれた手腕を発揮した塩谷大四郎、幕末では世襲代官として令名高い江川太郎左衛門など、いずれも農民生活の安定と向上のために一幕吏として尽した人々―五人をとりあげている。

代官と云えば年貢の収奪に狂奔し、農民の犠牲において立身出世や私欲を肥したと考えられ勝ちであるが、本書を一読することによつて考え直させられるであろう。なお、訴訟問題についての活躍も紹介されている。浅学のため、一層理解を深めさせられたことであろう。浅学のため、的はずれの紹介になつてしまつたかと思われるが、著者に御寛恕を乞う次第である。(B6判・本文二三一頁・定価三九〇円・人物往来社刊) 「史研受贈」

註1 藤野保氏・江戸幕府参照

註2 「日本歴史」一六〇号・一六八号・一七七号など、他は史学会通(一・二号)参照

附記「日本歴史」一八七号に進士慶幹氏の書評があるのでつけ加えておきたい。

会 員 近 業

旧二 村上 直

初期関東幕領における在地支配―伊奈郡代の開発地域を中心に―上下(日本歴史一八四、一八五号 昭38・9・10)
西鶴・生活の智慧 (国文学解釈と鑑賞二八卷十三号 昭38・11) 分担執筆

新一 樋口 秀雄
日本古印研究史―日本古印の印譜をめぐつて―(ミュー

ジウム一四九 昭38・8)

近世における出版と検閲(国文学八卷四号 昭38・3)

六回 新 藤 東洋男

明治二十五年の選挙干渉事件―福岡県の場合―(有明地歴論叢一集 昭38・9) 史研受贈

通教卒 川 村 優

旗本領の性格―特に知行村落内部の微細研究推進を主題とする覚書―(九十九里史学一号 昭36・11) 海保四郎氏と共同執筆

旗本石河氏の財政策―寛政・享和期を中心とする家政改革の方向とその本質―(九十九里史学二号 昭38・4)
旗本知行村落の一性格―五人組編成における特異性の事例を中心として―(史学会才六十回大会研究発表 昭36・11・12 於東京大学)

相給における五人組編成の問題(史学会才六十二回大会研究発表 昭38・11・10 於東京大学)

修三 上 原 栄子

十世紀における撰関家と藤氏受領の背反事例に関する研究―藤原理兼の備前国鹿田庄濫妨に対する放氏措置の史

的意義（政治経済史学七号 昭38・8）

全国中世史研究者才一回サマー・セミナー参加記（政治経済史学八号 昭38・9）

『曆象新書』の研究史（科学史研究六八号 昭38・12）

博一 大森 実
修一 鈴木 雄 六
米国の連邦議会警察制度について（レファレンス一五二
号 昭38・10）執務要覧の訳載

会 員 消 息

〔転 勤〕

添谷 英男 旧一 江戸川区立一之江小学校
高橋 道夫 旧一 港区立三河台小学校
大数加信寿 旧一 文京区立才二中学校
小沢 慶二 旧二 大田区立馬込中学校
石川 政雄 旧二 八王子市立八王子才九小学校（教務主任）
浜中 尚治 旧二 杉並区立高井戸才二小学校
田中 三雄 旧二 渋谷区立本町小学校
山下 文彦 新一 中野区立鷺宮小学校分校
大久保謙二 新一 江戸川区立松江小学校

酒井 ツヤ	新一	中野区立新井小学校
足立 普	新一	渋谷区立原宿中学校
権田 勇夫	新二	世田谷区立太子堂中学校
広田 宏	新二	渋谷区立千駄谷小学校
山田 耕作	新二	世田谷区立船橋小学校
田中 春興	三	杉並区立杉森中学校
本田 広	三	墨田区立向島中学校
橋本ヒミ子	三	八王子市立八王子才三小学校
西田 謙幸	三	大田区立六郷中学校
木村 主税	三退	江東区立東川小学校
奥谷 栄司	三退	世田谷区立松原小学校
吉川 遼々	三退	調布市立若葉小学校
志村 正幸	四	豊島区立長崎小学校
天野 行男	四	西多摩郡福生町立福生中学校
田中 紀夫	五	杉並区立西宮中学校
井之川隆一	六	品川区立平塚中学校
鈴木 健之	六	江戸川区立松江才五中学校
奥田 司郎	六	葛飾区立奥戸小学校
小貫 準男	八	小平市立小平才六小学校
豊田喜久蔵		中野区立谷戸小学校
藤池ミサオ	十二	東京都立代々木高校定時制
野田 節男	通教	北多摩郡田無町立田無小学校

（三部）
講師

岩佐 泰寿 通教 杉並区立富士見丘小学校

古山 陽司 九 (株) アイデアビュロー

田口 智久 十 日本国家公務員労働組合共闘会議

葉貫 磨哉 院九 駒沢大学専任講師(三十八年四月)

〔死 去〕

史学科三年生浜島のぞみさんは去る十一月九日、東海道本線鶴見列車事故で亡くなられました。謹んでご冥福をお祈りします。昼間通学後、東京都立青山高等学校定時制の事務に勤め、学内でも中国研究会などで活動、熱心な学生として痛く惜まれています。葬儀は十二日藤沢市内の真源寺で営まれ、教員・学友多数参列しました。

○回次示し方の例

- 旧二 旧制二回卒
- 新二 新制二回卒
- 院二 大学院修士課程二回卒
- 修二 大学院修士課程二年在学
- 博二 大学院博士課程二
- 三 新制三回卒

(注)新旧の別は二回まで、三回以降は新卒のみ。

研究室ニュース

○三十八年度私立大学研究設備助成補助金の交付を受けて史学研究室にマイクロフィルムで「寛永諸家系図伝」と「朝野群載」が備えられました。ご利用をお待ちします。

編集後記

○十月の才二号に引き続きましたが、前号の発行が遅れていたため、例会を機に本号を配布するよう間に合せました。(才一号は三十七年十二月発行)

○消息欄転勤先は東京都公立学校職員名簿で検索しましたので、かなり旧聞に属する分も含まれている筈です。閲覧について黒江さん(博三)のお取計いに感謝します。

○次号の発行予定は三十九年六月です。(安岡)

法政大学史学会通信 才三号
昭和三十八年十二月十四日 発行
法政大学史学会